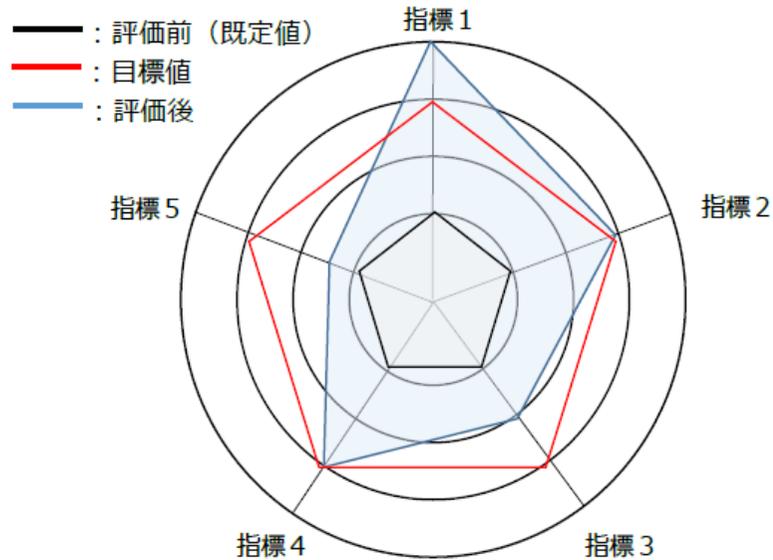


(資料1) 2ページ

1. 目標について

経済副首都の観点から考えたときに、わかりやすく、共感を得られる目標（指標と数値目標）として、どのようなものがふさわしいと考えられるか（他の中長期計画との関係を含む）。あわせて、ウェルビーイングの向上に関する目標（指標と数値目標）についての必要性をどう考えるか。必要とした場合、どのような目標が考えられるか。

- ➡ 〔意見〕 指標と定量的目標は記載せず、参考指標として、関連する指標を示す。
- ➡ 指標と定量的目標を示す場合には、ビジョンは、より大きな方向性を示す指標の設定が求められるため、指標の数については、多数列挙する形よりも、総合性・代表性の高いものを比較的少数に絞り込む形が望ましいのではないのでしょうか。
- ➡ これまでに都市評価について指標化されているものについて検討。
たとえば、「都市再生における新たな評価指標の検討について」（内閣府地方創生推進事務局（令和3年3月22日））、
<https://www.chisou.go.jp/tiiki/toshisaisei/yuushikisya/20210322/shiryoku4.pdf>
多様性評価、民間事業者による都市評価指標…



多角チャートによる都市の多様性評価

- ・ 所定の指標（例えば環境、文化、防災、デジタル、経済 等）を設定し、評価前における地域内の指数を既定値とする。
- ・ 各指標において、当該地域内にて目指すべき目標値（到達点）について設定を行う。（現行の再評価制度に準拠すれば概ね5年だが、評価スパンについても今後議論が必要）

※このとき、従来の統計数値等による静的なデータではなく、人流や消費購買のデータ、住民や来街者の意識に基づく動的データの向上を目標値として設定する。

※動的データの成果数値が恣意的なものにならないよう、動的データの種類、取得方法の整理が必要。



既存の都市評価手法に関する分類、指標、データ諸元の整理と、まだ使われていない新たなデータについて都市の評価として活用し得るデータについて整理を行い、都市再生における新たな評価指標の検討を行う。

【評価指標の検討イメージ】

	分類	都市再生の取組	評価指標
人の活動	働く	オフィス	就業者数（うち外国人）等
	住む	住宅	人口・世帯数（うち外国人）等
	暮らす・遊ぶ	商業施設/宿泊施設/イベント	購買・飲食売上額/観光消費額（うち外国人）/休日滞在人口等
	学ぶ（文化・芸術）	文化・芸術施設、学校	来場者数等
都市基盤	環境	緑化・景観	緑被率/電柱地中化率等
	安全	防災対策	一時退避・避難施設数等
	エネルギー	脱炭素	単位面積あたりCO2排出量等
	その他	環境悪化（マイナス要因）	空き家数等

(参考) 都市の評価に関する事例

民間事業者等による都市比較指標の例

- 各指標において、基幹統計等から得られる単純数値のみではなく、数値助の乗除による指数化、民間企業が収集・公表する数値やデータと掛け合わせることで、より多角的な都市特性の分析を行っている。
- 居住者へのアンケート調査により、指標として設定した項目に対しての主観的な得点（重み）付けを行うことで、数値データからは得られない独自の指標について評価を行っている事例も存在する。

【森記念財団による評価】

基幹統計等に基づく数値のほか、民間企業による人流推計や各種サービスの利用状況、個別施設数等のほか居住者アンケートにより6分野83指標で都市特性を評価。分野別、指標別に各々チャート化。

定量データ

定性データ

【LIFULL HOME's総研による評価】

都市の指標を「センシユアス指標」として項目化。これらの内容についてアンケート調査及び偏差値化により総合値を取ることで、都市における「幸福度」「満足度」を可視化。カテゴリー別集計も可能。

※森記念財団 都市戦略研究所HPより抜粋 (<http://www.mori-m-foundation.or.jp/ius/jpc/index.shtml>)

分野	指標グループ	指標
経済・ビジネス	経済規模	1 付加価値
		2 地域内販出
		3 雇用人口比率
	雇用・人材	4 就業率
		5 雇用機会
		6 雇用機会/人口比率
	人材の多様性	7 外国人労働者比率
		8 外国人労働者比率
		9 外国人労働者比率
	ビジネスの活力	10 特許出願件数
		11 特許出願件数
		12 特許出願件数
	ビジネス環境	13 特許出願件数
		14 特許出願件数
		15 特許出願件数
財政	16 財政健全化	
	17 財政健全化	
	18 財政健全化	
研究・開発	19 研究開発	
	20 研究開発	
	21 研究開発	
文化・交流	ハード資源	22 文化施設数
		23 文化施設数
		24 文化施設数
	ソフト資源	25 文化施設数
		26 文化施設数
		27 文化施設数
	受入環境	28 文化施設数
		29 文化施設数
		30 文化施設数
		31 文化施設数
交流実績	32 文化施設数	
	33 文化施設数	
	34 文化施設数	
発信実績	35 文化施設数	
	36 文化施設数	
	37 文化施設数	
生活・居住	安全・安心	38 犯罪発生率
		39 犯罪発生率
		40 犯罪発生率
	健康・医療	41 病院数
		42 病院数
		43 病院数
	育児・教育	44 保育園数
		45 保育園数
		46 保育園数
	市民生活・福祉	47 福祉施設数
48 福祉施設数		
49 福祉施設数		
居住環境	50 緑地面積	
	51 緑地面積	
	52 緑地面積	
生活利便施設	53 生活利便施設	
	54 生活利便施設	
	55 生活利便施設	
生活の余裕度	56 生活の余裕度	
	57 生活の余裕度	
	58 生活の余裕度	
環境パフォーマンス	59 環境パフォーマンス	
	60 環境パフォーマンス	
	61 環境パフォーマンス	
自然環境	62 自然環境	
	63 自然環境	
	64 自然環境	
快適性	65 快適性	
	66 快適性	
	67 快適性	
交通・アクセス	都市内交通	68 都市内交通
		69 都市内交通
		70 都市内交通
都市外アクセス	71 都市外アクセス	
	72 都市外アクセス	
	73 都市外アクセス	
移動の容易性	74 移動の容易性	
	75 移動の容易性	
	76 移動の容易性	

※LIFULL HOME's総研「Sensuous City」より抜粋 (<https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/>)

都市の行動 (「都市の動詞」)	食文化が豊か	街を感じる	自然を感じる	歩ける
1 お寺や神社にお参りをした	17 原民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ	21 街の風景をゆっくり眺めた	25 木陰で心地よい風を感じた	29 通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた
2 地域のボランティアやチャリティに参加した	18 地元でとれる食材を使った料理を食べた	22 公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た	26 公園や水辺で緑や水に直接ふれた	30 外で思い切り身体を動かして汗をかいた
3 馴染みの飲み屋で店主や常連者と盛り上がった	19 地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ	23 活気ある街の喧騒を心地よく感じた	27 美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た	31 家族と手を繋いで歩いた
4 買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ	20 ミシュランや食べログの評価の高いレストランで食事した	24 商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた	28 空気が美味しくて深呼吸した	32 道回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた
5 カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ				
6 半日の昼間から外で酒を飲んだ				
7 不倫のデートをした				
8 夜の盛り場でハメを外して遊んだ				
9 デートをした				
10 ナンパした・された				
11 路上でキスした				
12 素敵な異性に会った				
13 刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した				
14 ためになるイベントやセミナー、市民講座に参加した				
15 コンリート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した				
16 友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した				

たとえば、都市評価指標（Urban Audit Methodological Handbook
→<https://ec.europa.eu/eurostat/ramon/statmanuals/files/KS-BD-04-002-EN.pdf>）など先行事例を参考に「経済」「ウェルビーイング」に関連する指標を参照されることをご検討ください。同じ指標を用いることで、データベースもあるので、他都市との比較も可能になります（<https://www.urbanaudit.org/>）

（参考）都市評価指標の構成（9分野 25領域）→最新版をご確認ください。

1. 人口動態 1.1 人口 1.2 国籍 1.3 世帯
2. 社会面 2.1 住宅 2.2 健康 2.3 犯罪
3. 経済面 3.1 労働市場 3.2 経済活動 3.3 所得格差・貧困
4. 市民参加 4.1 市民参加 4.2 地方政府
5. 教育・訓練 5.1 教育・訓練の提供 5.2 教育の質
6. 環境 6.1 気候 6.4 廃棄物管理 6.2 空気・騒音 6.5 土地利用 6.3 水 6.6 エネルギー
7. 旅行・輸送 7.1 旅行形態
8. 情報社会 8.1 ユーザー・インフラ 8.2 地方の電子政府 8.3 情報通信技術部門
9. 文化・余暇 9.1 文化・余暇 9.2 観光

2. 目標年次について

目標年次は、いつをターゲットにするのがふさわしいと考えられるか（他の中長期計画との関係を含む）。

➡ 中期：2030年、長期：2050年と設定することが望ましい。

- ・ SDGs、脱炭素の目標の視点（2030年についてはSDGs未来都市も同様の目標設定、5-8ページ）
- ・ 国の計画とも整合（9-10ページ）